

# 府中市インフラマネジメント白書 (案)

平成 29 年〇〇月

府 中 市



# 目 次

1.	インフラマネジメント白書とは.....	1
1.1.	目 的.....	2
1.2.	位置づけ.....	3
1.2.1	国の動向.....	3
1.2.2.	計画の体系.....	4
2.	管理数量・人口について.....	5
2.1.	管理数量.....	6
2.2.	人口.....	8
3.	インフラの現状について.....	10
3.1.	インフラ充足度（近隣市との比較）.....	11
3.2.	インフラの整備状況.....	13
3.2.1.	地域の区分.....	13
3.2.2.	整備状況一覧.....	14
3.2.3.	車道舗装.....	15
3.2.3.1.	全体数量.....	15
3.2.3.2.	道路位置.....	17
3.2.3.3.	車道舗装の整備状況.....	18
3.2.3.4	地域別集計.....	34
3.2.4.	歩道・植樹ます.....	50
3.2.4.1.	全体数量.....	50
3.2.4.2	歩道・植樹ます位置.....	50
3.2.4.3.	歩道・植樹ますの整備状況.....	52
3.2.5.	案内標識.....	60
3.2.5.1.	全体数量.....	60
3.2.5.2	案内標識位置.....	61
3.2.5.3.	案内標識の整備状況.....	63
3.2.5.4.	地域別集計.....	63
3.2.6.	警戒標識・その他標識.....	65
3.2.6.1.	全体数量.....	65
3.2.6.2	警戒標識・その他標識位置.....	67
3.2.6.3.	警戒標識・その他標識の整備状況.....	68
3.2.6.4.	地域別集計.....	68
3.2.7.	街路灯.....	69
3.2.7.1.	全体数量.....	69
3.2.7.2.	維持管理の状況.....	73
3.2.7.3.	維持管理の整備状況.....	74
3.2.7.4.	地域別集計.....	80

<b>3.2.8. 道路反射鏡</b> .....	<b>88</b>
3.2.8.1. 全体数量.....	88
3.2.8.2. 道路反射鏡位置.....	89
3.2.8.3. 道路反射鏡の整備状況.....	90
3.2.8.4. 地域別集計.....	91
<b>3.2.9. 街路樹</b> .....	<b>92</b>
3.2.9.1. 全体数量.....	92
3.2.9.2. 街路樹位置.....	94
3.2.9.3. 街路樹の整備状況.....	95
3.2.9.4. 地域別集計.....	96
<b>3.2.10. 橋りょう</b> .....	<b>99</b>
3.2.10.1. 全体数量.....	99
3.2.10.2. 橋りょう位置.....	102
3.2.10.3. 橋りょうの整備状況.....	107
3.2.10.4. 橋りょうの劣化状況.....	111
3.2.10.5. 地域別集計.....	114
<b>3.2.11. 立体横断施設等</b> .....	<b>116</b>
3.2.11.1. 全体数量.....	116
3.2.11.2. 立体横断施設等位置.....	117
3.2.11.3. 立体横断施設等の整備状況.....	118
<b>3.2.12. 大型構造物</b> .....	<b>119</b>
3.2.12.1. 全体数量.....	119
3.2.12.2. 大型構造物位置.....	120
3.2.12.3. 大型構造物の整備状況.....	121
<b>3.2.13. 公園緑地等</b> .....	<b>122</b>
3.2.13.1. 全体数量.....	122
3.2.13.2. 公園緑地等の位置.....	133
3.2.13.3. 公園緑地等の現況.....	136
3.2.13.4. 公園緑地等の整備状況.....	150
3.2.13.5. 地域別集計.....	164
<b>3.2.14. 下水道</b> .....	<b>197</b>
3.2.14.1. 下水道の事業計画.....	197
3.2.14.2. 主要施設.....	199
3.2.14.3. 管理施設.....	202
3.2.14.4. 下水道の整備状況.....	203
<b>3.2.15. 法定外公共物</b> .....	<b>208</b>
3.2.15.1. 全体数量.....	208
3.2.15.2. 法定外公共物の整備状況.....	208
<b>3.3. 維持管理の現況</b> .....	<b>209</b>
<b>3.4. 財政状況の推移</b> .....	<b>212</b>
3.4.1. インフラの管理に係るコストの区別.....	212
3.4.2. 維持管理費及び補修更新費の推移.....	213

3.4.2.1.	インフラ予算の推移.....	213
3.4.2.2.	道路/道路付属物/橋りょう/公園緑地等/立体横断施設等/大型構造物/法定外公共物.....	213
3.4.2.3.	下水道.....	215
<b>3.4.3.</b>	<b>維持管理に係る経費.....</b>	<b>219</b>
3.4.3.1.	道路/橋りょう/公園緑地等.....	219
3.4.3.2.	街路灯.....	220
3.4.3.3.	街路樹.....	221
3.4.3.4.	道路反射鏡.....	221
3.4.3.5.	立体横断施設等.....	222
3.4.3.6.	大型構造物.....	222
3.4.3.7.	下水道.....	223
3.4.3.8.	法定外公共物.....	223
<b>3.4.4.</b>	<b>補修更新に係る経費.....</b>	<b>224</b>
3.4.4.1.	道路/道路付属物/橋りょう/公園緑地等/立体横断施設等/大型構造物/法定外公共物.....	224
<b>3.4.5.</b>	<b>人件費.....</b>	<b>225</b>
<b>3.4.6.</b>	<b>歳入の推移.....</b>	<b>226</b>
3.4.6.1.	市歳入.....	226
3.4.6.2.	地方譲与税.....	226
<b>3.4.7.</b>	<b>管理ボランティア制度の推移.....</b>	<b>228</b>
<b>3.4.8.</b>	<b>インフラマネジメントの関心.....</b>	<b>229</b>
<b>4.</b>	<b>将来の管理費用の予測について.....</b>	<b>235</b>
4.1.	経費予測の条件.....	236
4.2.	将来経費の予測額.....	240
4.2.1.	将来経費の予測額全体.....	240
4.2.2.	将来経費の予測額の内訳（維持管理）.....	241
4.2.2.1.	街路灯の将来経費.....	242
4.2.2.2.	下水道の維持管理経費.....	245
4.2.3.	将来経費の予測額の内訳（補修更新）.....	248
4.2.3.1.	車道舗装.....	249
4.2.3.2.	歩道・植樹ます.....	253
4.2.3.3.	橋りょう.....	254
4.2.3.4.	街路灯.....	258
4.2.3.5.	公園緑地等.....	259
4.2.3.6.	下水道.....	263
4.2.4.	将来経費の予測額の内訳（人件費）.....	264
4.3.	予測結果の評価.....	265
4.3.1.	全体.....	265
4.3.2.	車道舗装／歩道・植樹ます／橋梁.....	265
4.3.3.	街路樹.....	265
4.3.4.	標識.....	266

4.3.5.	街路灯.....	266
4.3.6.	道路反射鏡.....	266
4.3.7.	立体横断施設等.....	266
4.3.8.	大型構造物.....	266
4.3.9.	公園緑地等.....	267
4.3.10.	下水道.....	267
4.3.11.	法定外公共物 .....	267
5.	参考資料 (用語の解説) .....	268

# 1. インフラマネジメント白書とは

# 1. インフラマネジメント白書とは

---

## 1.1. 目 的

---

---

府中市では、昭和 30 年代～昭和 40 年代の高度経済成長期に、道路、橋梁、公園緑地等、下水道などの、多くの都市基盤施設（以下、「インフラ」という。）を整備しました。これらのインフラは、市民生活の根幹を担うものとして、安全性を欠くことなく管理をしてきました。しかし、これらのインフラの多くが整備後 35 年以上を経過しており、同時期に老朽化が進行しています。そのため、今後の管理に係る費用は膨大なものとなり、現状の市の財政事情では、全てのインフラや公共施設等をこれまでと同様に管理し続けていくことができません。

このことから、インフラにおける計画的な管理及び適切なコスト管理を進めるために、市の現状を踏まえたインフラマネジメントを構築する必要があります。市では、平成 25 年 1 月に「府中市インフラマネジメント計画（以下、「インフラマネジメント計画」という。）」を策定し、インフラの安全性を将来に渡って確保することを目的として、取組みを推進しています。

インフラマネジメントを進めていくためには、インフラ管理に係る現状や課題の把握などを的確に行った上で取組む必要があります。本白書では、現状の劣化状況や課題等を整理することで、インフラ管理に係る方向性を示す「インフラマネジメント計画」を推進するための根拠資料とします。



## 1.2. 位置付け

### 1.2.1. 国の動向

平成 24 年（2012 年）12 月の笹子トンネル天井板落下事故以降、インフラの老朽化対策は国の取組みとしても推進されており、平成 25 年（2013 年）10 月には、内閣官房による「インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議」が設置されました。

平成 25 年（2013 年）11 月には、インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議により、国民生活やあらゆる社会経済活動を支える各種施設をインフラとして幅広く対象とし、戦略的な維持管理・更新等の方向性を示す基本的な計画として、「インフラ長寿命化基本計画」がまとめられました。この計画においては、国と地方公共団体それぞれにおいて、あらゆるインフラの安全性の向上と効率的な維持管理を実現することとされています。国においては、各省庁で行動計画を策定し、取組みを進めています。

地方公共団体に対しては、平成 26 年（2014 年）4 月に総務省から、「公共施設等の総合的かつ計画的な管理の推進について」が通知され、「公共施設等総合管理計画」の策定が求められています。さらに公共施設等総合管理計画に基づき、地方公共団体が実施する公共施設等の除却について、地方債を充当することができるとする特例措置が創設されています。

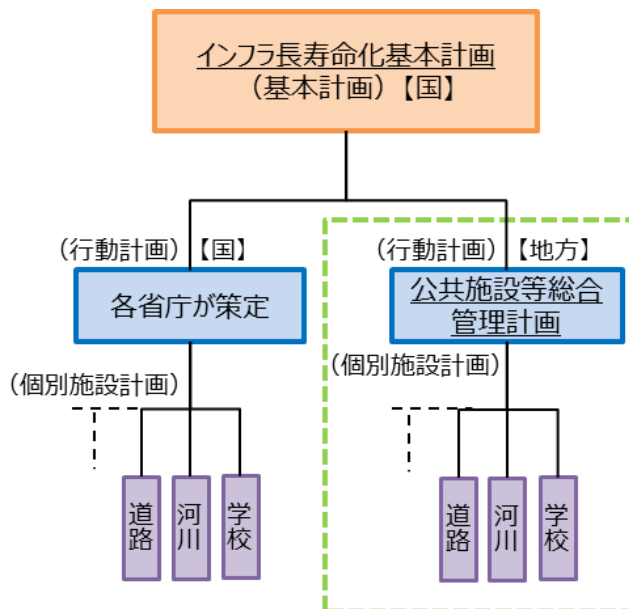


図 1-2-1-1 国の計画の体系イメージ

## 1.2.2. 計画の体系

本市では、国が定めるインフラ長寿命化基本計画策定以前からインフラや公共施設等に係る課題を認識しており、平成 25 年 1 月に「インフラマネジメント計画」、平成 26 年 1 月に「第 1 次 府中市公共施設マネジメント推進プラン」を策定し、計画的に取り組んできました。そのため、国の要請に基づき、前述のインフラマネジメント計画及び公共施設マネジメントを一体で取り組む、「府中市公共施設等総合管理計画」を新たに策定しています。「府中市公共施設等総合管理計画」は、国が定めるインフラ長寿命化基本計画の「行動計画」とし位置付けています。

また、同基本計画の「個別施設計画」として、「インフラマネジメント計画」、「府中市公共施設マネジメント推進プラン」及び「双方に基づく個別施設の計画」を位置付けます。

本書は、「インフラマネジメント計画」を補完する根拠資料として位置付けます。

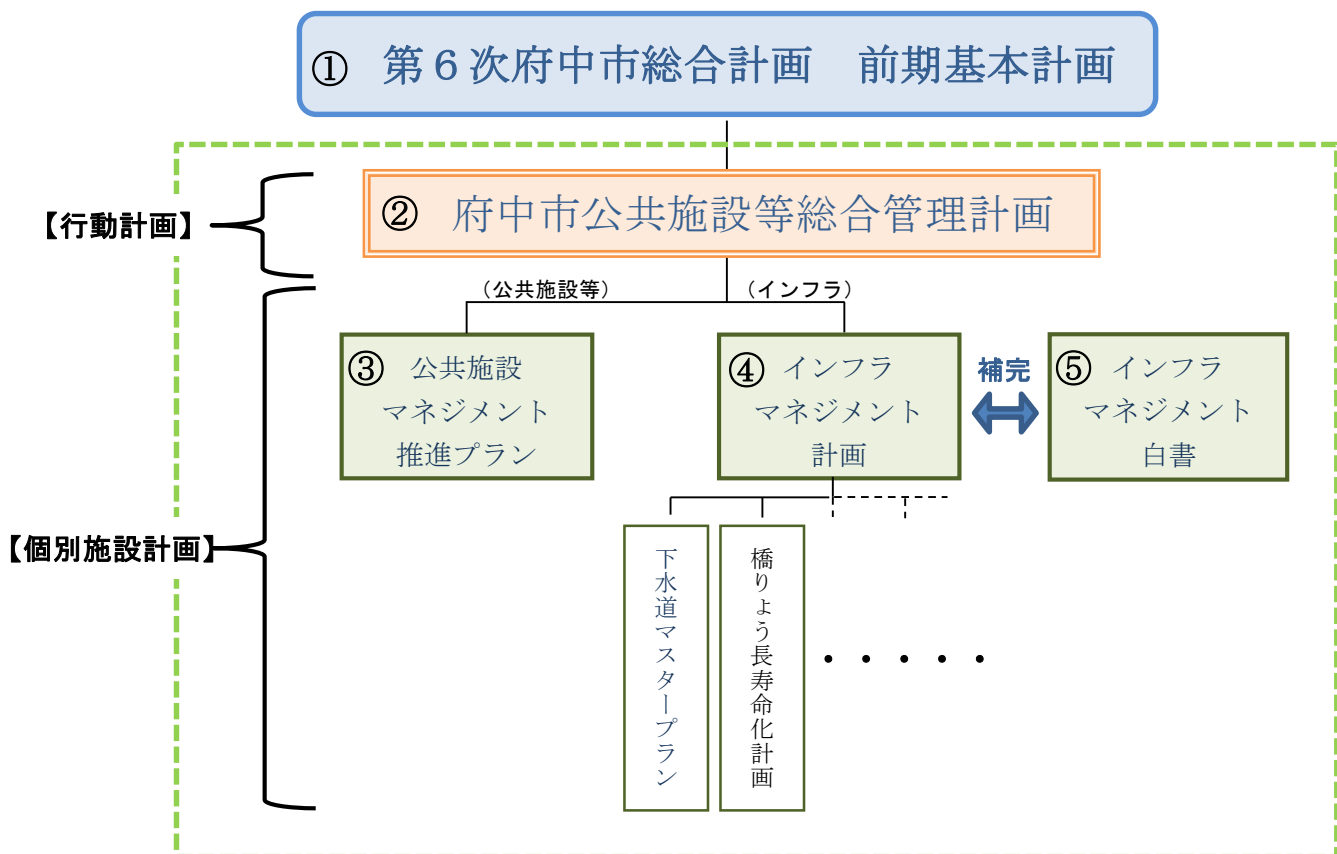


図 1-2-2-1 計画の体系イメージ

## 2. 管理数量・人口について

## 2. 管理数量・人口について

### 2.1. 管理数量

市が管理する、「道路」、「橋梁」、「公園緑地等」、「下水道」などについて、規模や劣化状況などを分析します。本「白書」で管理状況を明らかにするインフラの対象は、次の通りです。

表 2-1-1 「白書」対象施設 一覧表

施設項目	種別	数量	延長	面積	備考	
道路	車道	幹線市道	61 路線	88.540km	987,299 m <sup>2</sup>	
		一般市道	2,369 路線	343,166km	1,685,811 m <sup>2</sup>	
		合計	2,430 路線	431,706km	2,673,110 m <sup>2</sup>	
	歩道	歩道舗装	371 路線	173.502km	—	
		植樹ます (89 路線)	1,867 か所	—	—	
道路附属物	標識	施設案内標識	803 基	—	—	
		警戒標識	283 基	—	—	
		その他標識	122 基	—	—	
		合計	1,208 基	—	—	
	街路灯	交通安全灯	7,245 基	—	—	
		防犯灯	11,335 基	—	—	
		合計	18,580 基	—	—	
	道路反射鏡	3,113 基	—	—		
街路樹	10,488 本 (240 路線)	—	—			

施設項目	種別	数量	延長	備考
橋りょう	道路橋	21 橋	354m	
	歩道橋	15 橋	387m	
	合計	36 橋	741m	
立体横断施設等	ペDESTリアンデッキ	2 橋	—	府中駅、府中本町駅、西府駅及び分倍河原駅付近
	エレベーター	7 基	—	
	エスカレーター	4 基	—	
大型構造物	ボックスカルバート	10 か所	—	
	擁壁	15 か所	—	
	その他	1 か所	—	
	合計	26 か所	—	

施設項目	種別		箇所数	面積	備考
公園緑地等	市立公園	都市公園	274 箇所	1,299,063 m <sup>2</sup>	
		スポットパーク	35 箇所	5,107 m <sup>2</sup>	
		広場	40 箇所	16,094 m <sup>2</sup>	
		府中多摩川かぜのみち	1 箇所	35,048 m <sup>2</sup>	
	市立公園以外の管理地		46 箇所	80,992 m <sup>2</sup>	
	合計		396 箇所	1,436,305 m <sup>2</sup>	

施設項目	流域	区域面積	管きょ延長	備考
下水道	北多摩一号処理区	2,505.73ha	734,354m	
	野川処理区	219.47ha	18,054m	
	合計	2,725.20ha	752,409m	布設年度不明分を含む。

施設項目	種別	面積	備考
法定外公共物	赤道	86,759 m <sup>2</sup>	
	水路	169,467 m <sup>2</sup>	
	市有通路	55,596 m <sup>2</sup>	

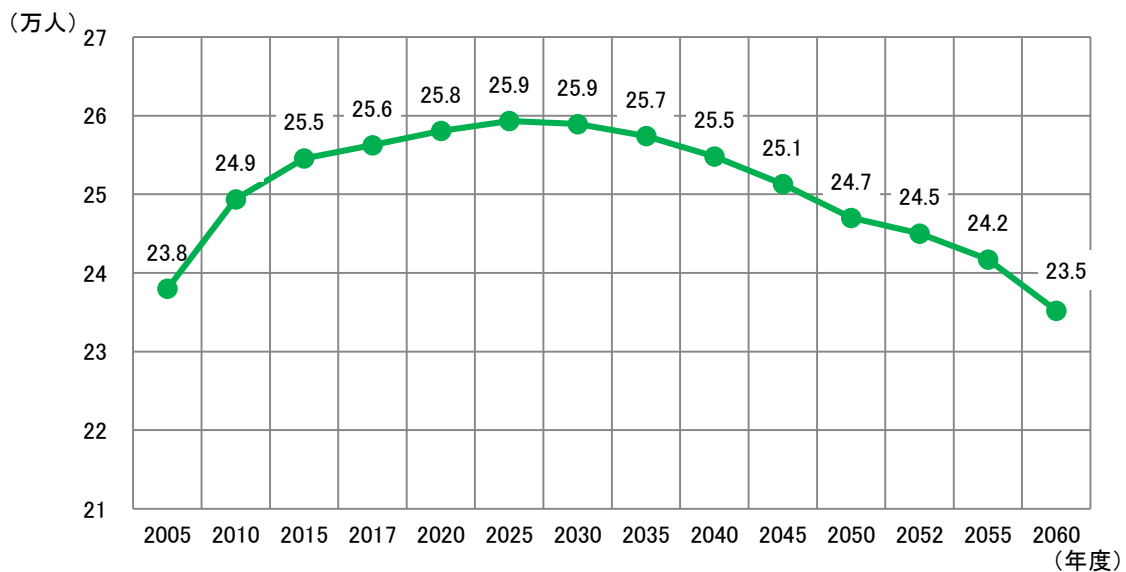
※ 出典「平成 27 年度 府中市事務報告書」及び「道路調査資料」、「市の管理道路に関する調査」、「標識台帳」、「反射鏡台帳」、「公園緑地等関係資料」、「下水道マスタープラン」

## 2.2. 人口

「府中市人口ビジョン（平成28年1月策定）」では、本市の人口の将来展望を検討するに当たり、総人口や人口構造を把握するため、将来人口のシミュレーションを実施し、市の最上位計画である「第6次府中市総合計画」で示す将来人口推計と同様の考えに基づき、近年の合計特殊出生率や社会移動の状況を踏まえた推計として「基本ケース」を設定しています。

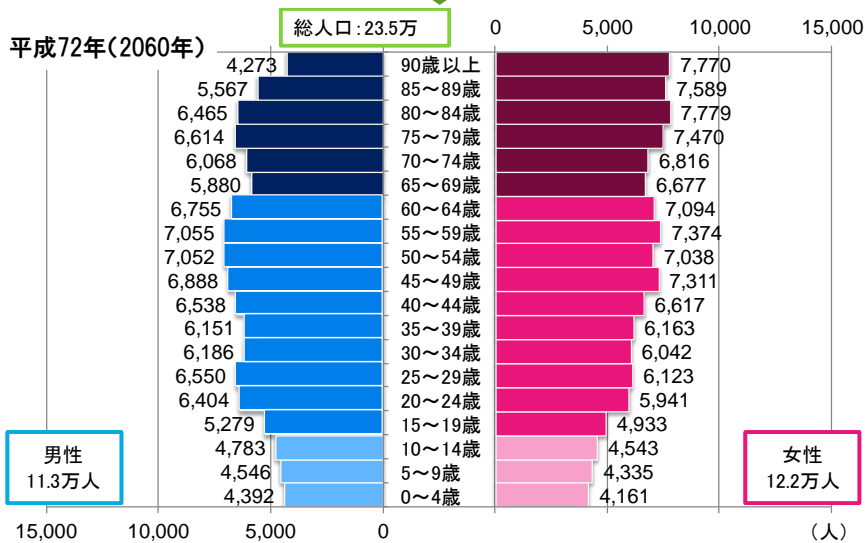
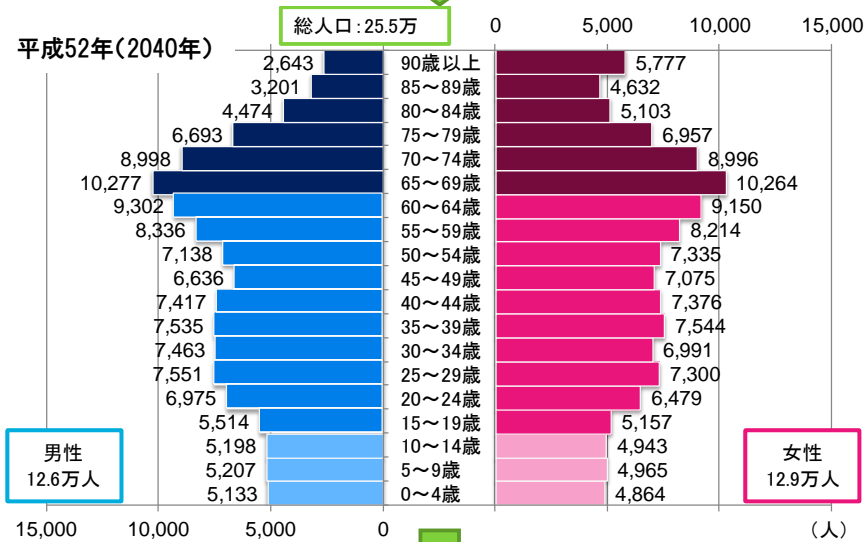
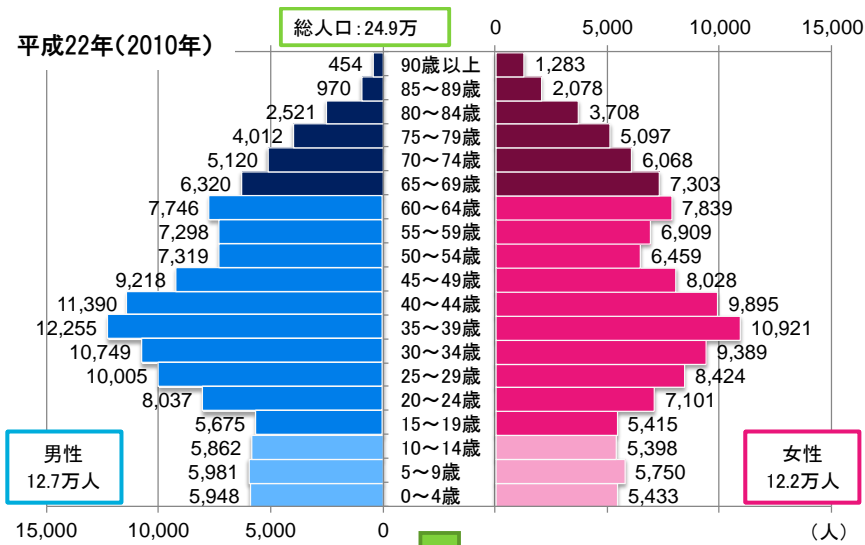
その中では、本市の総人口は、平成37年（2025年）頃、約25.9万人でピークを迎え、以降減少に転じ、平成72年（2060年）には23.5万人で、ピークから2万人以上減少すると見込まれています。

また、人口構造に関するシミュレーション結果では、平成52年（2040年）には、35歳から45歳までのいわゆる団塊ジュニア世代が高齢者となり、急激に高齢化が進むことが見込まれています。さらに、平成72年（2060年）には、団塊ジュニア世代のような極端なピークを形成する年齢層はなくなるものの、年少人口の減少傾向が強まるが見込まれています。



出典：「府中市人口ビジョン」

図2-2-1 長期的な総人口の推移に関するシミュレーション結果



出典: 「府中市人口ビジョン」

図2-2-2 人口構造に関するシミュレーション結果

### 3. インフラの現状について



### 3. インフラの現状について

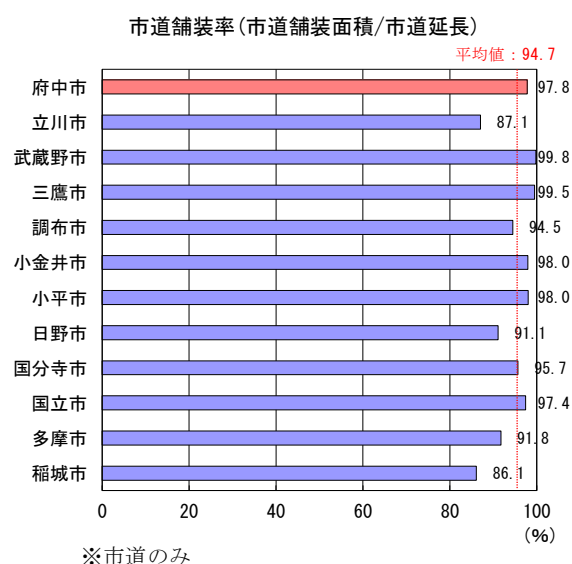
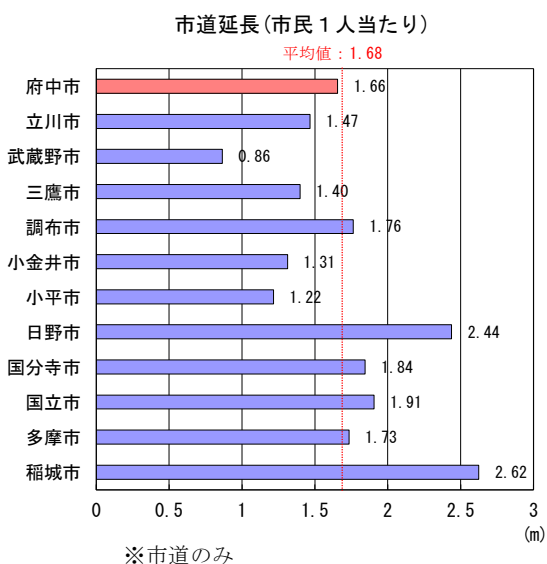
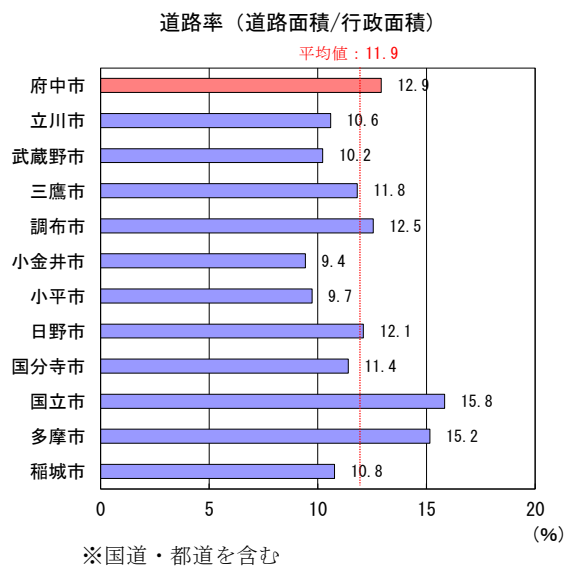
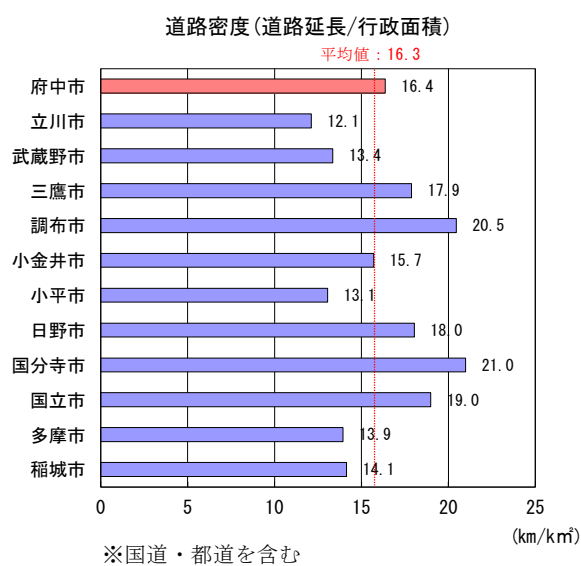
3-1

インフラ充足度（近隣市との比較）

#### 3.1. インフラ充足度（近隣市との比較）

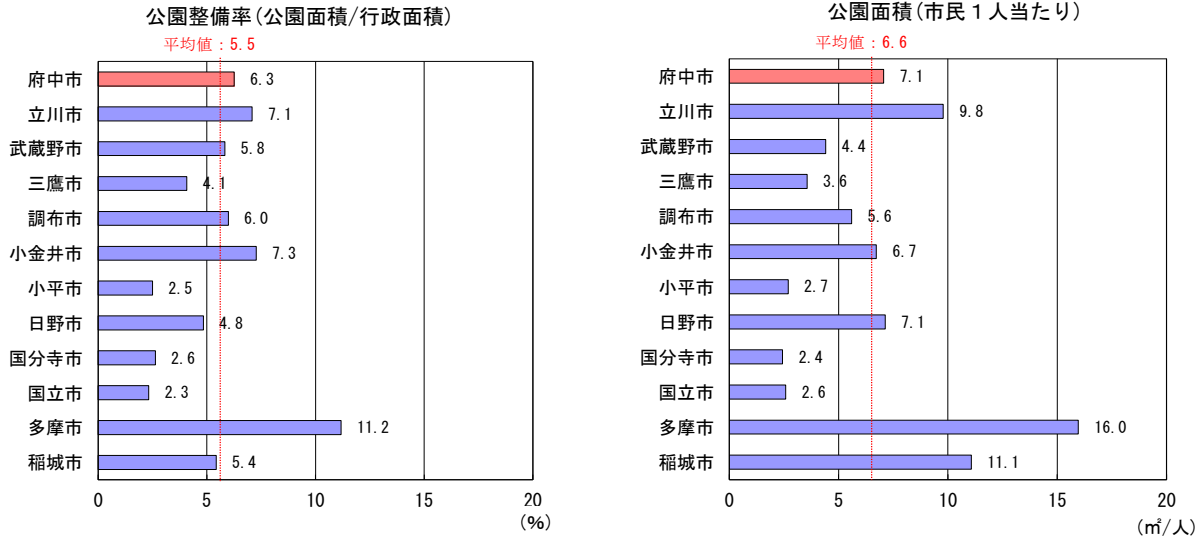
近隣の市と府中市のインフラ充足度を比較しました。府中市のインフラ充足度は、近隣の市と比較して同等、もしくは高い状態です。

##### ○ 道路



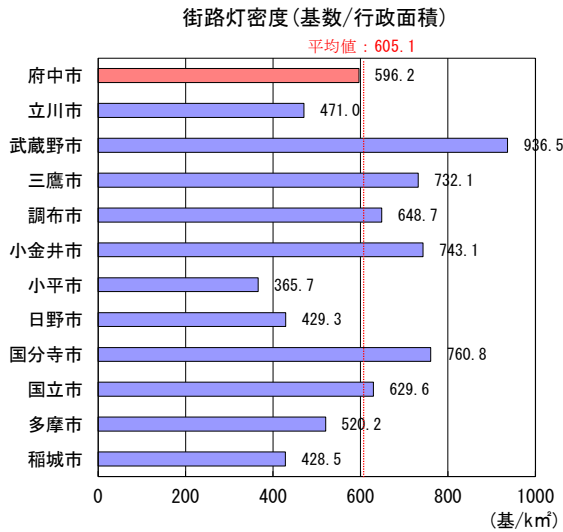
- ※ 出典【道路・人口】東京都道路現況調査（東京都建設局道路管理部）（平成28年度）
- ※ 出典【行政面積】平成28年全国都道府県市区町村別面積調（国土地理院）
- ※ 出典【市道舗装面積】各市のホームページ等

## 公園緑地等

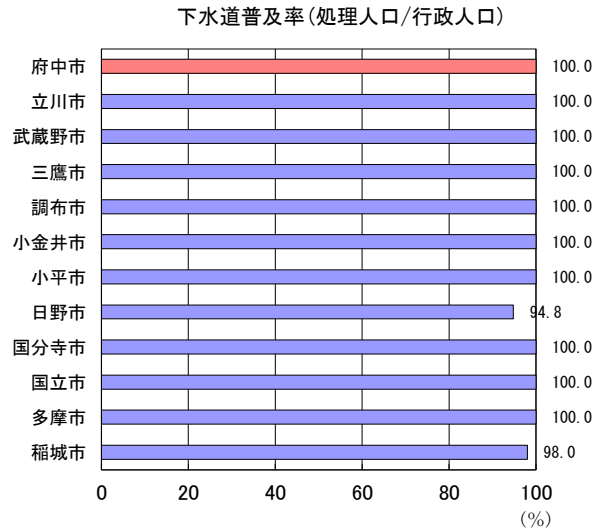


※ 出典【公園緑地等】東京都都市公園等区市町村別面積・人口割比率表（平成28年4月1日）

### ○ 街路灯



### ○ 下水道



※ 出典【街路灯】各市のホームページ等

※ 出典【下水道普及率】全国市町村別下水道処理人口普及率一覧（平成27年度末）

（日本下水道協会）

## 3.2. インフラの整備状況

### 3.2.1. 地域の区分

インフラの整備状況は、市全体のほかに、「府中市都市計画マスタープラン」で定める「地域別まちづくり方針」の地域区分ごとに整理します。地域区分は、次のとおりです。

表 3-2-1-1 地域区分一覧表

地域区分	面積 (ha)	地域範囲
第1地域	約 539ha	多磨町全域、朝日町全域、紅葉丘全域、白糸台1丁目～3丁目及び4丁目～6丁目の一部、若松町3丁目～5丁目
第2地域	約 594ha	白糸台4～6丁目の一部、押立町全域、小柳町全域、若松町1丁目及び2丁目、清水が丘全域、是政1～5丁目、日吉町全域
第3地域	約 394ha	浅間町全域、天神町全域、新町全域、幸町全域、晴見町全域、栄町全域
第4地域	約 227ha	府中町全域、緑町全域、宮町全域、八幡町全域、本町1丁目及び2丁目、宮西町全域、寿町全域
第5地域	約 244ha	武蔵台1～3丁目、北山町1～4丁目、西原町1～4丁目、東芝町の一部
第6地域	約 248ha	片町1～3丁目、日鋼町全域、東芝町の一部、美好町1～3丁目、分梅町1丁目、本宿町1～4丁目、西府町全域
第7地域	約 413ha	矢崎町全域、南町全域、本町3丁目及び4丁目、分梅町2丁目～5丁目、住吉町全域、是政6丁目
第8地域	約 271ha	四谷全域、日新町全域

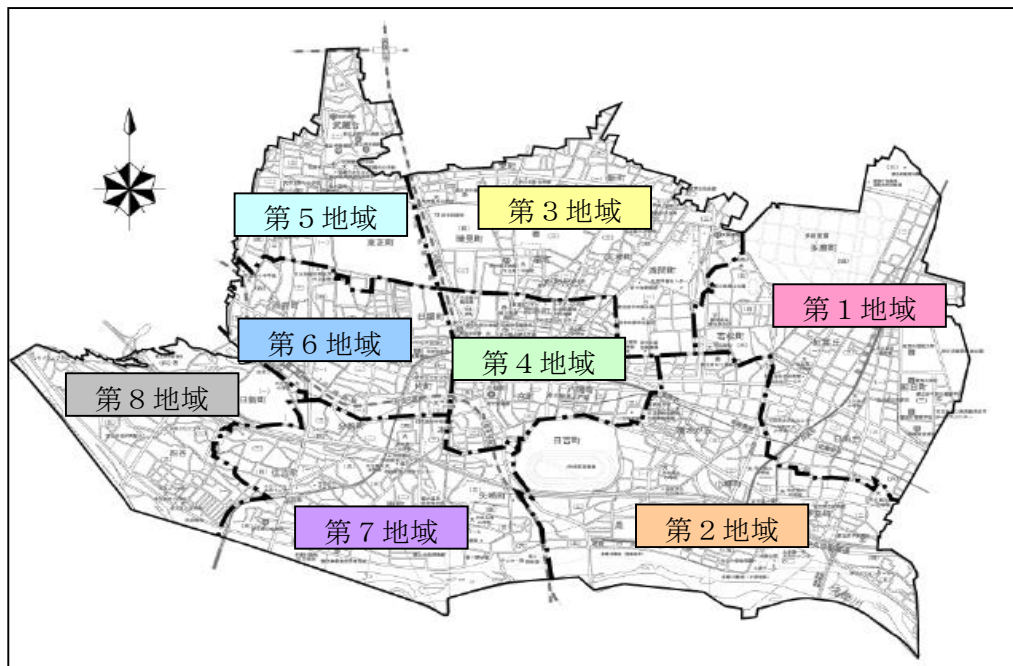


図 3-2-1-1 地域区分図

### 3.2.2. 整備状況一覧

本白書で整理している各施設の情報（3.2.3.～3.2.15）は、次の資料を根拠に整理を行ったものです。

表 3-2-2-1 調査条件一覧

施設項目	施設名	調査・点検 年度(最新)	更新内容
道路	車道	平成 28 年度現地調査	路面性状調査車 目視調査
	歩道	平成 28 年度現地調査	目視調査
道路附属物	施設案内標識	平成 24 年度現地調査	目視調査
	警戒標識	平成 28 年度過年度台帳整理	—
	その他標識	一部現地調査	目視調査
	交通安全灯	平成 28 年度管理台帳整理	—
	防犯灯	平成 28 年度管理台帳整理	—
	道路反射鏡	平成 28 年度過年度台帳整理 一部現地調査	— 目視調査
	街路樹	平成 27 年度 航空写真	目視調査
橋りょう	平成 27・28 年度橋梁定期点 検結果	目視調査	
立体横断施設等	平成 28 年度整理	—	
大型構造物	平成 28 年度整理	—	
公園緑地等	公園緑地等関係資料	—	
下水道	下水道マスタープラン	—	
法定外公共物	平成 28 年度整理	—	

### 3.2.3. 車道舗装

車道舗装は、路面性状調査車および目視により、舗装面の劣化状況を調査しました。

#### 3.2.3.1. 全体数量

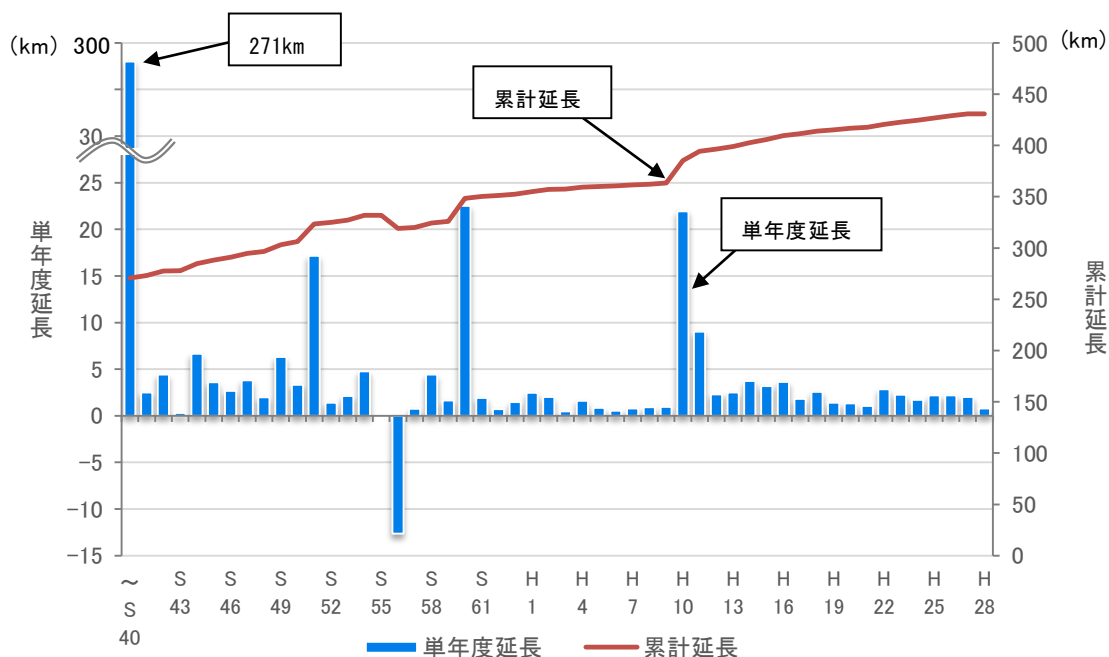
車道の管理数値は、表 3-2-3-1 のとおりです。なお、この表の数値は、歩道を含む数量です。

表 3-2-3-1 車道（全体）の管理数値

項目	延長	面積
道路	431,706m	2,673,110 m <sup>2</sup>
舗装	416,886m	2,633,087 m <sup>2</sup>
舗装率	96.74%	98.75%

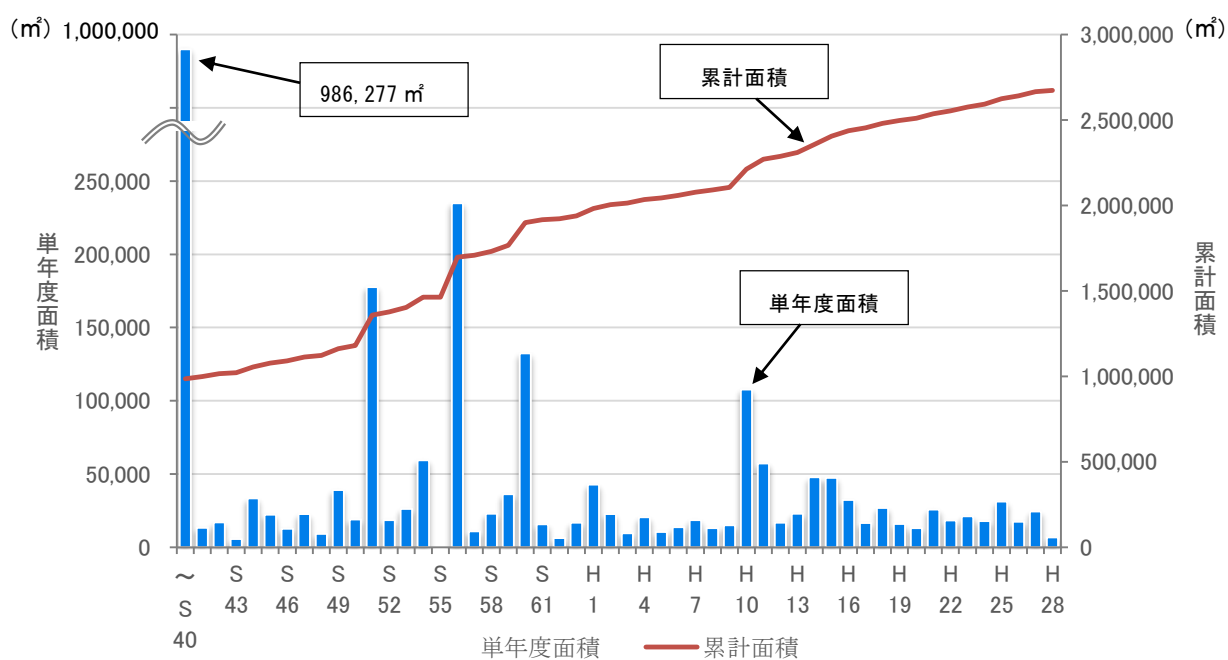
※ 出典「平成 27 年度 府中市事務報告書」及び「道路調書資料」より抜粋

府中市が管理する市道（橋りょうを含む。）は、道路延長が約 431km、道路面積が約 267 万 m<sup>2</sup>です。このうち、道路延長の約 63%が、また、道路面積の約 37%が昭和 40 年度までに整備されたものです。



※昭和 5 6 年度の市道の再編成時に数値を整理しています。

図 3-2-3-1 市道の認定状況（延長）



※昭和56年度の市道の再編成時に数値を整理しています。

図 3-2-3-2 市道の認定状況 (面積)



### 3.2.3.3. 車道舗装の整備状況

#### (1) 点検条件

##### ① 指標

車道舗装の評価は、舗装の劣化状態を指標とします。(MCI値※)

※ MCI値(維持管理指数)

旧建設省において、道路管理者が主観的に維持修繕を必要と感じる路面状態を表す指標として開発された、日本独自の指数です。

※ MCI値の評価めやす

MCI3.0以下	すぐに補修が必要
MCI4.0以下	補修が必要
MCI5.0以下	すぐに補修は必要ないが経過観察が必要
MCI5.1以上	問題なし

※(説明写真)劣化状況例ごとのMCI値



図 3-2-3-4 MCI=5  
ひび割れが見える程度



図 3-2-3-5 MCI=3.5~4  
ひび割れが複数ある程度



図 3-2-3-6 MCI=3  
ひび割れが面状にひろがり、わだちが顕著



図 3-2-3-7 MCI=2  
ひび割れが全面にひろがり、わだち掘れが顕著



## ② 実施数量

調査した車道舗装の延長は、次のとおりです。

表 3-2-3-2 車道調査数量一覧

調査方法	道路種別	調査延長 (m)	調査項目	評価単位	上下線	備考
機 械	幹線市道	153,374	ひびわれ	20mごと	上下	多車線区間は全車線調査（付加車線除く）としました
	一般市道	9,172	わだち掘れ			
目 視	一般市道	320,167	ひびわれ	街区ごと	下りのみ	
合 計		482,713	—	—	—	

※ 車道幅員 6.5m 以上の区間を含む路線は「機械調査」、それ以外は「目視調査」を行っています。

※ 目視調査路線は、大型車両が少なくわだち掘れが発生しにくいと判断し、ひびわれ調査のみを行っています。

※ 解析時、目地は劣化に含めないこととしました。

## ③ 調査項目及び解析手法

### 【機械調査※】

機械調査（路面性状測定車）は、「舗装調査・試験法便覧（社団法人日本道路協会平成 19 年 6 月）」に基づいて解析しました。

#### 1) ひびわれ率（機械）

車道の面積に対してどの程度ひびわれがあるのかを、0.1%単位で調査しました。

#### 2) わだち掘れ（機械）

わだち掘れの量を、測定区間の進行方向 10m 毎にmm単位で調査しました。

※ 車道舗装の劣化状態を把握するため、専用の「路面性状測定車」により調査を実施しました。なお路面性状測定車は、毎年行われる公的機関による性能確認試験で性能保証を受けた車両を使用しています。

**【目視調査】**

目視調査は、調査員が徒歩でひびわれのみを調査しました。なお、ひびわれの劣化程度は、次に示す判定基準に基づいて決定しました。

- ひびわれ率（目視）
  - ・ 不連続に単線でひびわれが発生している場合 5%以下
  - ・ 連続して単線でひびわれが発生している場合 5～15%
  - ・ 道路幅のおおむね 1/8 にひびわれが発生している場合 5～15%
  - ・ 道路幅のおおむね 1/4 にひびわれが発生している場合 15～30%
  - ・ 道路幅のおおむね 1/3 にひびわれが発生している場合 30～50%
  - ・ 道路幅のおおむね 1/2 にひびわれが発生している場合 50%以上

**④ 評価方法と要補修判定基準**

**【評価方法】**

評価には、MC I（維持管理指数<sup>※1</sup>）を用いています。なお、MC I は、次の式により算出しています。

$$MCI_0 = 10 - 1.51C^{0.3} - 0.30D^{0.7} \quad (1)$$

$$MCI_1 = 10 - 2.23C^{0.3} \quad (2)$$

$$MCI_2 = 10 - 0.54D^{0.7} \quad (3)$$

- ここに C : ひびわれ率(%)  
 D : わだち掘れ量(mm)  
 MC I、MC I i : 維持管理指数

機械調査は、上記(1)～(3)の式で算出した値のうち、最も小さい値を用いました。また、目視調査については、(2)の式で算出した値を用いました。

**【補修判定基準】**

補修の判定基準は、表 3-2-3-3 に示す値を用いました。

表 3-2-3-3 MC I の標準的な判定基準

評価ランク	評価の範囲	判定結果
水準Ⅰ	0.0 ≤ MCI ≤ 3.0	早急に修繕が必要
水準Ⅱ	3.0 < MCI ≤ 4.0	修繕が必要
水準Ⅲ	4.0 < MCI ≤ 5.0	修繕が望ましい
水準Ⅳ	5.0 < MCI	望ましい管理水準

※ 出典「第 34 回建設省技術研究会報告 昭和 55 年度」P40

### ⑤ 車道舗装の補修間隔

昭和 56 年度から平成 28 年度までの「工事台帳」から、車道舗装の補修実績（更新サイクルに相当）の実態を把握しました。

具体的には、過去の補修状況を工法別に集計し、平均経年数などの舗装補修の現状を把握しました。また、集計対象は、同一箇所に対して 2 回以上の工事台帳がある区間と、補修工事を 1 回実施した後から現在に至っている区間とします。なお、舗装の更新サイクルを≒耐用年数(劣化予測の算定ベース)としました。

## 3-2-2

インフラの整備状況（車道舗装）

#### 【舗装更新・補修の実績】

○ 幹線市道	打換え工事の平均更新間隔年数は	約 19 年
	オーバーレイ工事の平均補修間隔年数は	約 12 年
○ 一般市道	打換え工事の平均更新間隔年数は	約 21 年
	オーバーレイ工事の平均補修間隔年数は	約 10 年

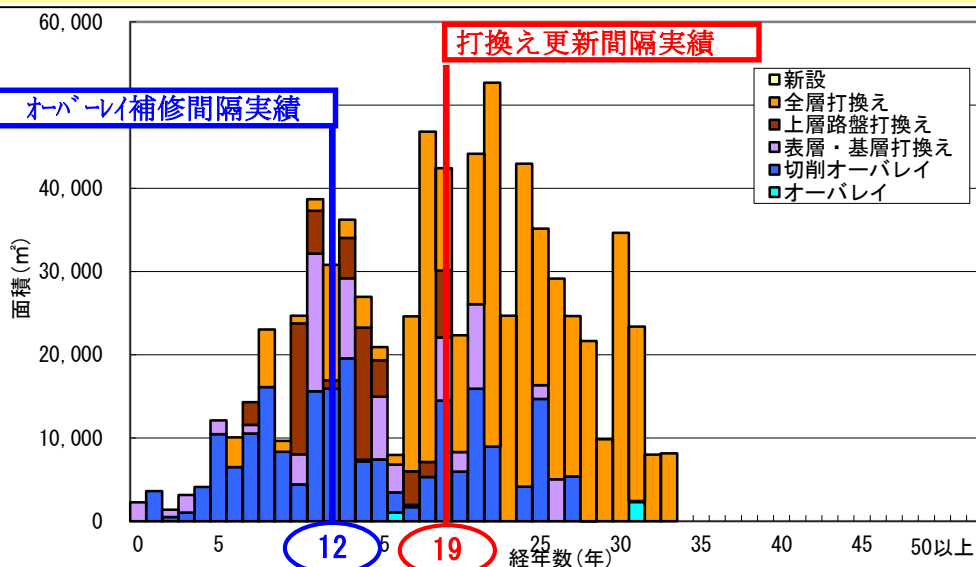


図 3-2-3-8 幹線市道の舗装更新周期（実績）

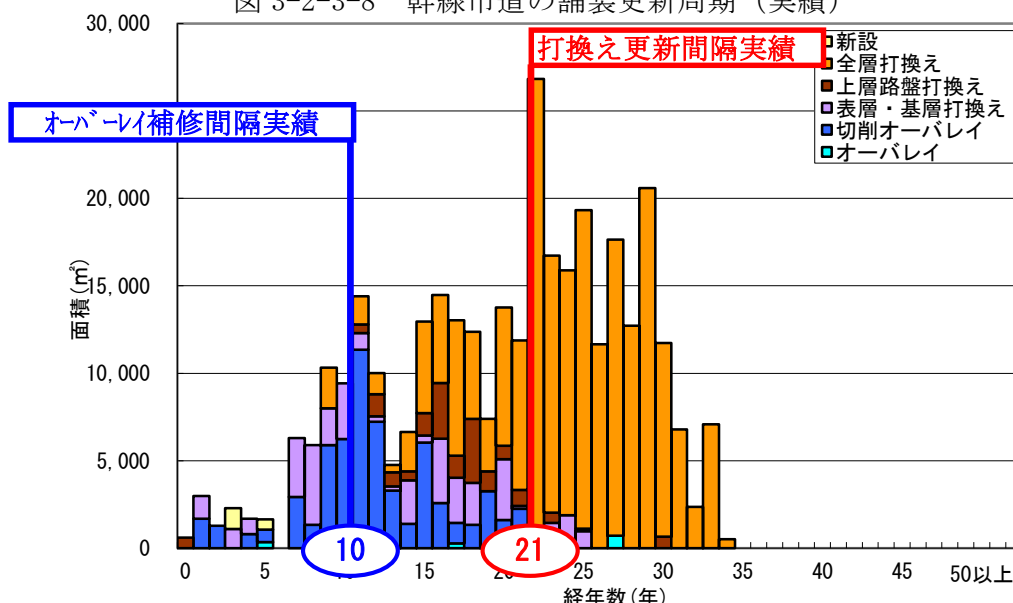


図 3-2-3-9 一般市道の舗装更新周期（実績）

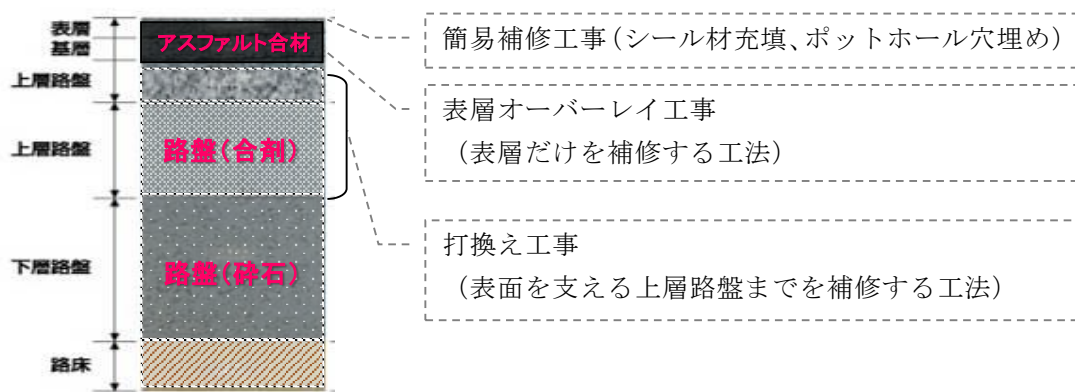


図 3-2-3-10 舗装の構造と補修工事のイメージ

## (2) 点検結果（全体）

### ①-1 MCI（維持管理指数）

調査結果から、地域別に平均MCIを比較しました。なお、市全体での平均MCIは6.7であり、前回調査（平成23年度）から0.2減少しています。

また、地域別の比較では第5地域、第8地域が最も低く（劣化している）、平均MCIは6.5です。第5地域は、大規模な工場や幹線都道を含む地域です。第8地域は、多摩川沿いに緑地が見られ、工場跡地から集合住宅へ土地利用転換が進んでいる地域です。（図3-2-3-11）

表 3-2-3-4 車道舗装の劣化程度（地域区分別のMCI）

地域区分	平成28年度		前回調査（平成23年度）		増減
	調査延長	平均MCI	調査延長	平均MCI	
市全体	482,713m	6.7	473,183m	6.9	-0.2
第1地域	75,160m	6.9	71,034m	7.1	-0.2
第2地域	91,131m	6.7	92,578m	7.1	-0.4
第3地域	62,712m	6.7	61,351m	6.9	-0.2
第4地域	46,885m	6.6	47,177m	6.4	0.2
第5地域	32,808m	6.5	32,584m	6.7	-0.2
第6地域	47,128m	6.7	44,557m	6.6	0.1
第7地域	68,233m	6.7	67,900m	6.9	-0.2
第8地域	58,656m	6.5	56,002m	6.7	-0.2

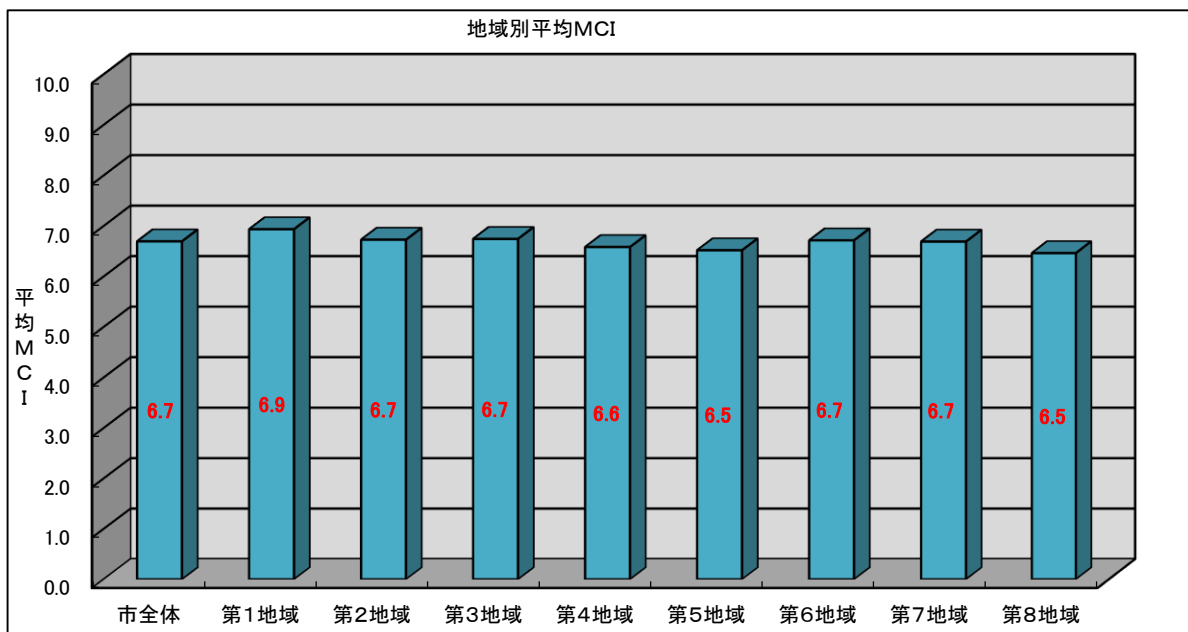


図 3-2-3-11 平成28年度 地域別平均のMCI比較（地域区分別）

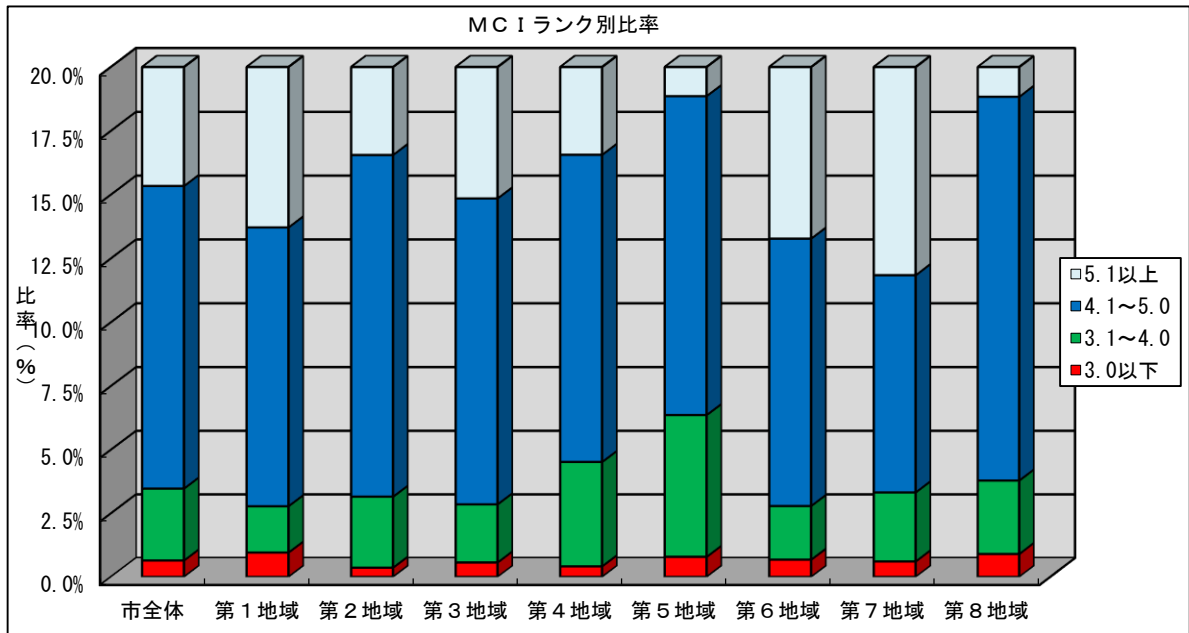
### ①-2 MC I (維持管理指数) ランク別割合

MC I の標準的な判定基準(表 3-2-2-3)に基づき、「MC I 3.0 以下(早急に修繕が必要)」、「MC I 3.1~4.0(修繕が必要)」、「MC I 4.1~5.0(修繕が望ましい)」、「MC I 5.1 以上(望ましい管理水準)」の4ランクに分類して延長割合を比較しました。

早急な修繕が必要なMC I 3.0 以下は、市全体で 0.6%でした。なお、地域ごとに比較すると第1地域(1.0%)、第8地域(0.9%)、第5地域(0.8%)の順となっています。(図 3-2-3-12)

表 3-2-3-5 車道舗装の劣化割合 (地域区分別のMC I)

MC I	3.0以下	3.1~4.0	4.1~5.0	5.1以上	合計
市全体	0.6%	2.8%	11.9%	84.7%	100%
第1地域	1.0%	1.8%	10.9%	86.3%	100%
第2地域	0.4%	2.8%	13.4%	83.4%	100%
第3地域	0.6%	2.3%	12.0%	85.1%	100%
第4地域	0.4%	4.1%	12.0%	83.4%	100%
第5地域	0.8%	5.6%	12.5%	81.1%	100%
第6地域	0.7%	2.1%	10.5%	86.7%	100%
第7地域	0.6%	2.7%	8.5%	88.2%	100%
第8地域	0.9%	2.9%	15.0%	81.2%	100%



※ ■ (早急に修繕が必要) ■ (修繕が必要) ■ (修繕が望ましい)

図 3-2-3-12 地域別・MC I ランク別割合比較 (地域区分別)

## ②-1 ひびわれ率

調査結果から、地域別に平均ひびわれ率を比較しました。なお、市全体での平均ひびわれ率は7.1%であり、前回調査（平成23年度）から2.0%増加しています。

また、地域別の比較では第5地域が最も高く（劣化している）、平均ひびわれ率は8.1%です。第5地域は、大規模な工場や幹線都道を含む地域です。（図3-2-3-13）

表 3-2-3-6 車道舗装の劣化程度（地域区分別のひびわれ率）

地域区分	平成28年度		前回調査（平成23年度）		増減
	調査延長	平均ひびわれ率	調査延長	平均ひびわれ率	
市全体	482,713m	7.1%	473,183m	5.1%	2.0%
第1地域	75,160m	6.8%	71,034m	4.8%	2.0%
第2地域	91,131m	6.9%	92,578m	4.3%	2.6%
第3地域	62,712m	7.2%	61,351m	5.4%	1.8%
第4地域	46,885m	7.9%	47,177m	6.7%	1.2%
第5地域	32,808m	8.1%	32,584m	5.0%	3.1%
第6地域	47,128m	7.1%	44,557m	5.9%	1.2%
第7地域	68,233m	6.3%	67,900m	4.6%	1.7%
第8地域	58,656m	7.7%	56,002m	5.1%	2.6%

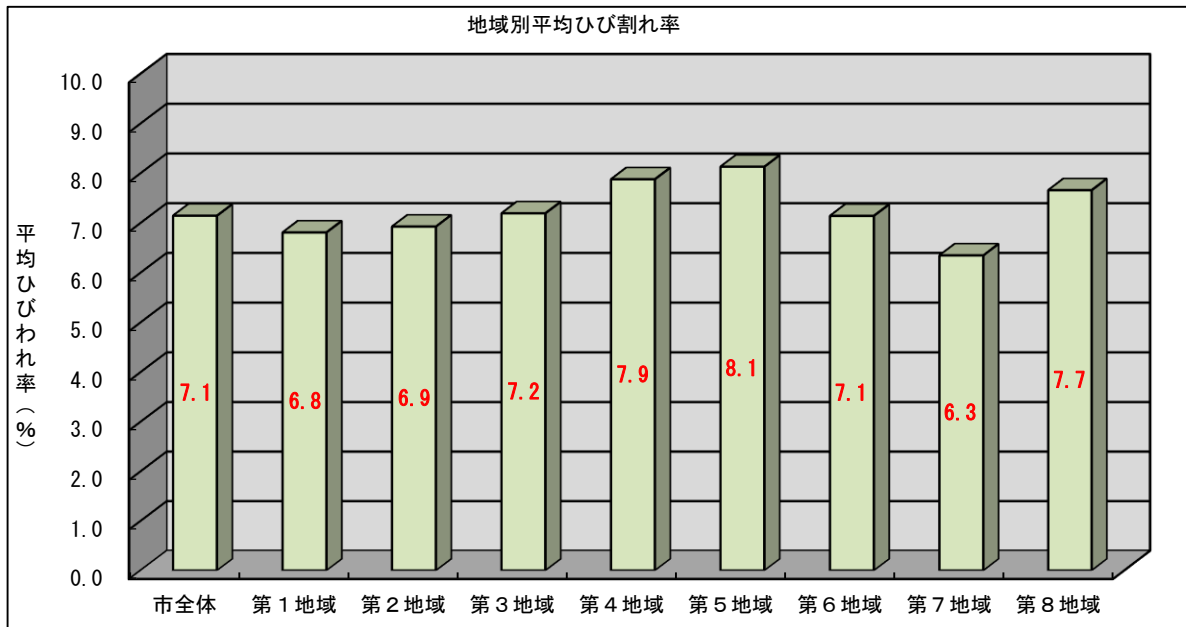


図 3-2-3-13 平成 28 年度 地域別平均のひびわれ率比較（地域区分別）

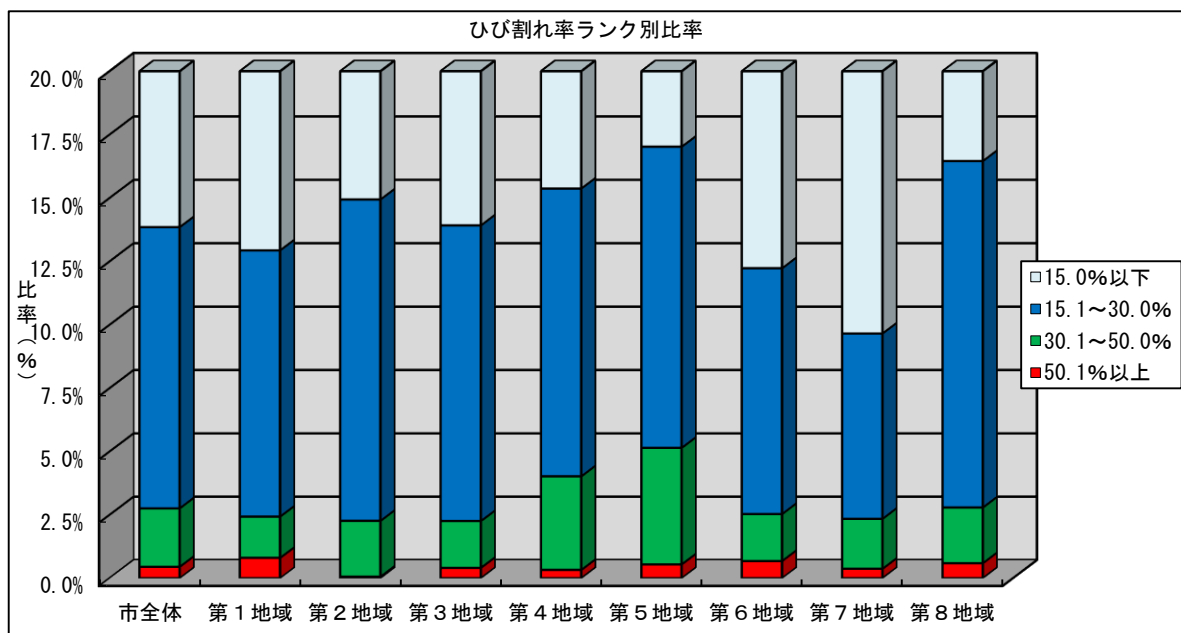
## ②-2 ひびわれ率 ランク別割合

早急な修繕が必要なひびわれ率である 50.1%以上の区間は、市全体で 0.4%でした。なお、該当箇所は、第 1 地域(0.8%)、第 6 地域(0.7%)、第 8 地域(0.9%)の順となっております。

この結果は、平均MC I とほぼ同じ傾向です。このことから、府中市管理市道の劣化要因は、「ひびわれ」であるといえます。

表 3-2-3-7 車道舗装の劣化割合（地域区分別のひび割れ率）

ひびわれ率	50.1%以上	30.1~50.0%	15.1~30.0%	15.0%以下	合計
市全体	0.4%	2.3%	11.1%	86.1%	100%
第 1 地域	0.8%	1.6%	10.5%	87.1%	100%
第 2 地域	0.1%	2.2%	12.7%	85.1%	100%
第 3 地域	0.4%	1.8%	11.7%	86.1%	100%
第 4 地域	0.3%	3.7%	11.4%	84.6%	100%
第 5 地域	0.5%	4.6%	11.9%	83.0%	100%
第 6 地域	0.7%	1.9%	9.7%	87.8%	100%
第 7 地域	0.4%	2.0%	7.3%	90.3%	100%
第 8 地域	0.6%	2.2%	13.7%	83.5%	100%



※ ■ (早急に修繕が必要) ■ (修繕が必要) ■ (修繕が望ましい)

図 3-2-3-14 地域別・ひびわれ率ランク別割合比較（地域区分別）



### ③-1 わだち掘れ量

調査結果から、地域別に平均わだち掘れ量を比較しました。なお、市全体での平均わだち掘れ量は、7.0mm であり、前回調査（平成 23 年度）から 0.1mm 増加しています。

また、地域別の比較では第 7 地域が最も高く（劣化している）、平均わだち掘れ量は 7.8mm です。第 7 地域は、多摩川沿いに緑地が見られ、工場跡地から集合住宅へ土地利用転換が進んでいる地域です。（図 3-2-3-15）

表 3-2-3-8 車道舗装の劣化程度（地域区分別のわだち掘れ量）

地域区分	平成28年度		前回調査（平成23年度）		増減
	調査延長	平均わだち掘れ量	調査延長	平均わだち掘れ量	
市全体	162,546m	7.0mm	161,123m	6.9mm	0.1mm
第1地域	22,088m	6.2mm	20,641m	5.9mm	0.3mm
第2地域	34,083m	7.2mm	34,711m	7.2mm	0.0mm
第3地域	18,216m	6.1mm	17,819m	6.7mm	-0.6mm
第4地域	11,882m	7.2mm	12,056m	6.6mm	0.6mm
第5地域	12,578m	7.2mm	12,611m	6.8mm	0.4mm
第6地域	13,527m	6.1mm	13,077m	6.1mm	0.0mm
第7地域	25,836m	7.8mm	25,976m	7.5mm	0.3mm
第8地域	24,336m	7.2mm	24,232m	7.5mm	-0.3mm

※：「平均わだち掘れ量」は機械調査区間のみの集計結果です

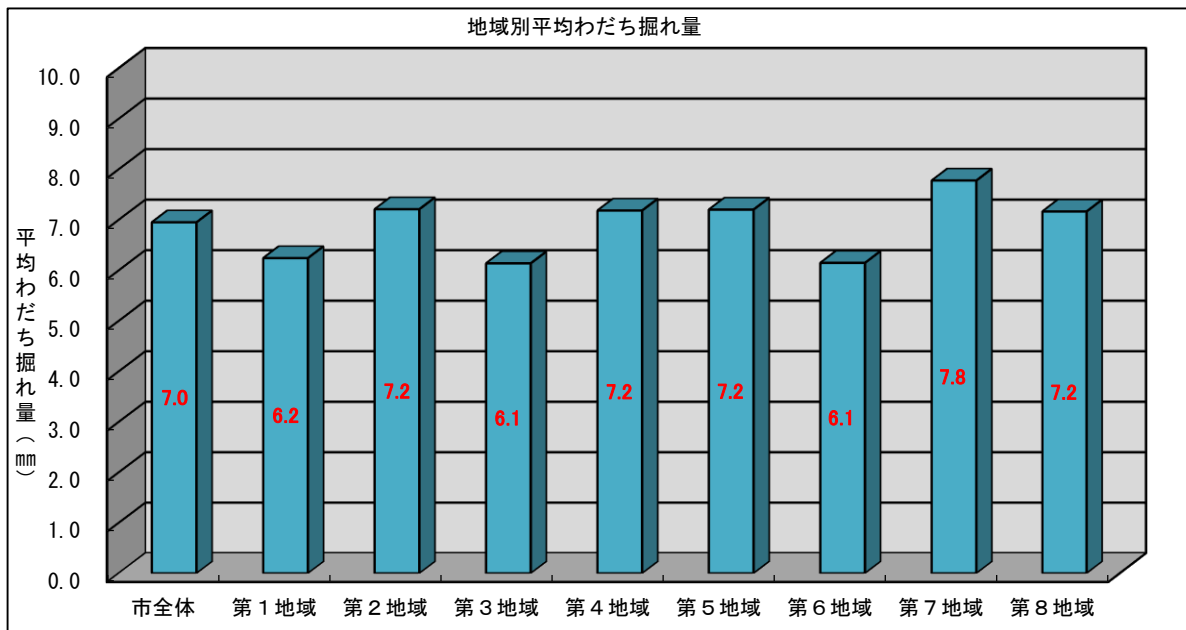


図 3-2-3-15 平成 28 年度 地域別平均わだち掘れ量比較（地域区分別）

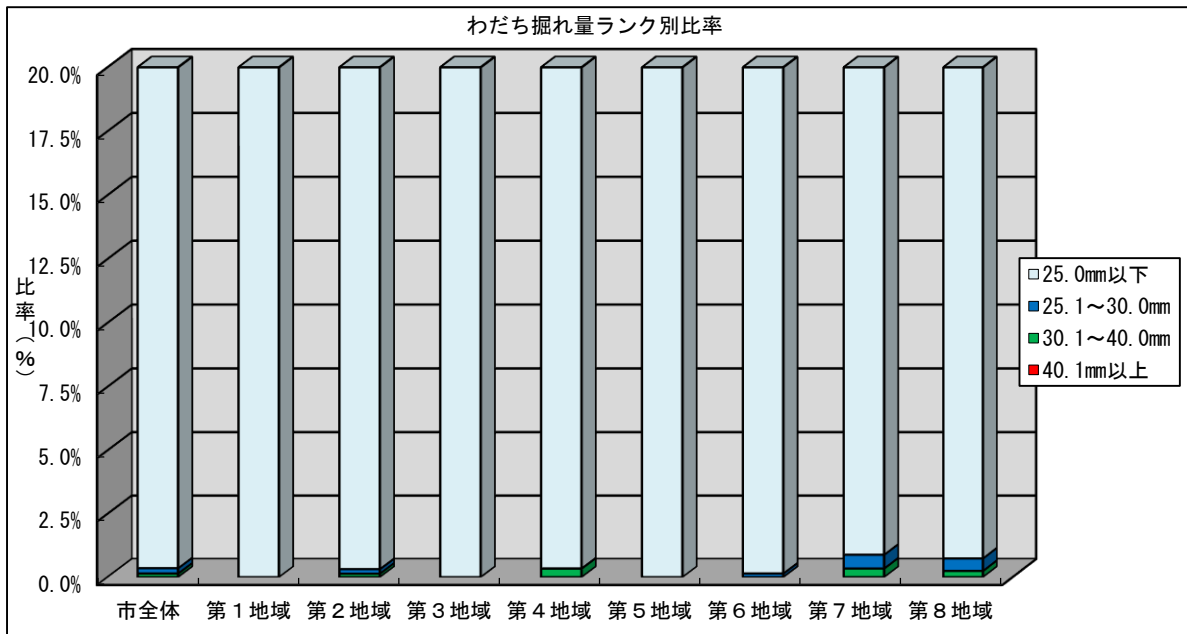
### ③-2 わだち掘れ量 ランク別割合

早急な修繕が必要なわだち掘れ量である 40.1 mm 以上は、対象箇所がありませんでした。また、修繕が必要な箇所に相当するわだち掘れ量 30.1～40.0 mm は市全体で 0.1% あり、該当箇所は第 4 地域 (0.3%)、第 7 地域 (0.3%)、第 8 地域 (0.2%)、第 2 地域 (0.1%) です。(図 3-2-3-16)

この結果から、府中市管理市道において「わだち掘れ」が直接の原因で補修を検討する箇所はありません。

表 3-2-3-9 車道舗装の劣化割合 (地域区分別のわだち掘れ量)

わだち掘れ量	40.1mm以上	30.1～40.0mm	25.1～30.0mm	25.0mm以下	合計
市全体	0.0%	0.1%	0.2%	99.6%	100%
第1地域	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100%
第2地域	0.0%	0.1%	0.2%	99.7%	100%
第3地域	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100%
第4地域	0.0%	0.3%	0.0%	99.7%	100%
第5地域	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100%
第6地域	0.0%	0.0%	0.1%	99.9%	100%
第7地域	0.0%	0.3%	0.5%	99.1%	100%
第8地域	0.0%	0.2%	0.5%	99.3%	100%



※ ■ (早急に修繕が必要) ■ (修繕が必要) ■ (修繕が望ましい)

図 3-2-3-16 地域別・わだち掘れ量ランク別割合比較 (地域区分別)

### (3) 結果分析

#### ① 全体

市全体の平均である、「MC I 値」、「ひび割れ」、「わだち掘れ」をまとめると、次の表の通りです。調査の結果、前回調査時（平成 23 年度）と比較すると、MC I 値が僅かに低下し、ひび割れ率やわだち掘れ量の数値に進行が見られることから、若干劣化が進行している状態であるといえます。

表 3-2-3-10 市全体の平均値および前回比較

項目	平成 28 年度 平均値	前回調査平均値 (平成 23 年度)	差
MC I	6.7	6.9	-0.2
ひび割れ率	7.1%	5.1%	2.0%
わだち掘れ量	7.0mm	6.9mm	0.1mm

#### ② 要因別

- 府中市管理市道における舗装の劣化要因は、「ひびわれ」です。
- 現状では、「わだち掘れ」によって補修を検討する箇所はみられません。

#### ③ 地域別

- 「MC I 3.0 以下(早急な修繕が必要)」の区間は、市の郊外に点在しています。
- 第 5 地域と第 8 地域が低く（劣化している）、平均MC I は 6.5 です。
- 第 5 地域はひび割れ率の割合が高いため、車道舗装の主要な劣化要因は「ひびわれ」であるといえます。
- 平均わだち掘れ量がやや高い地域は、第 7 地域です。なお、第 7 地域は、多摩川沿いに緑地が見られ、工場跡地から集合住宅へ土地利用転換が進んでいる地域です。



#### ④ 補修必要区間

調査を行った路線について、現状で補修が必要な区間はMC I 3.0以下の区間です。調査の結果から、「MC I 3.0以下（早急な修繕が必要）」の区間は、75箇所 3,118 mあります。

表 3-2-3-11(1/2) 補修対策箇所一覧表 (MC I 3.0 以下)

No	路線名称	地域	上下	距離自 (m)	距離至 (m)	区間長 (m)	ひびわれ率 (%)	わだち掘れ最大 (mm)	わだち掘れ平均 (mm)	MC I
1	幹線:中央道側道	2	下	3,420	3,421	1	75.0	39	37	0.3
2	幹線:しみず下通り	2	下	720	760	40	40.2	44	34	1.6
3	幹線:多磨霊園東通り	1	上	940	1,060	120	75.6	6	4	1.9
4	一般:1-67	1	下	0	104	104	75.0	-	-	1.9
5	一般:1-109	1	下	0	116	116	75.0	-	-	1.9
6	一般:1-359	1	下	0	64	64	75.0	-	-	1.9
7	一般:3-131	3	下	229	339	110	75.0	-	-	1.9
8	一般:3-201	3	下	357	423	66	75.0	-	-	1.9
9	一般:4-372	4	下	42	86	44	75.0	-	-	1.9
10	一般:4-378	4	下	0	39	39	75.0	-	-	1.9
11	一般:5-172	5	下	33	44	11	75.0	-	-	1.9
12	一般:5-212	5	下	0	68	68	75.0	-	-	1.9
13	一般:5-21	6	下	0	37	37	75.0	-	-	1.9
14	一般:5-87	6	下	0	282	282	75.0	-	-	1.9
15	一般:4-176	7	下	228	237	9	75.0	-	-	1.9
16	一般:4-182	7	下	0	160	160	75.0	-	-	1.9
17	一般:4-426	7	下	0	45	45	75.0	-	-	1.9
18	一般:6-202	8	下	0	168	168	75.0	-	-	1.9
19	一般:6-248	8	下	31	71	40	75.0	-	-	1.9
20	幹線:しみず下通り	2	下	780	820	40	47.4	32	24	2.1
21	幹線:多摩川通り	7	下	4,400	4,460	60	50.9	39	22	2.1
22	幹線:平和通り	2	上	60	68	8	68.8	15	12	2.1
23	幹線:多磨霊園東通り	1	下	940	1,060	120	67.5	6	4	2.2
24	幹線:けやき並木通り	4	下	269	280	11	66.1	6	4	2.2
25	幹線:多摩川通り	7	上	4,520	4,540	20	39.1	24	24	2.3
26	幹線:多摩川通り	8	上	1,420	1,500	80	49.2	31	20	2.4
27	幹線:あんず通り	1	上	240	260	20	58.5	9	7	2.4
28	幹線:七小通り	5	下	1,640	1,660	20	57.9	24	15	2.4
29	幹線:ふるさと通り	7	下	280	300	20	40.7	26	21	2.4
30	幹線:競馬場正門通り	4	下	0	60	60	57.0	7	5	2.5
31	幹線:多磨霊園東通り	1	上	1,160	1,220	60	55.3	8	5	2.5
32	幹線:中央道側道	8	下	780	820	40	55.7	12	8	2.6
33	幹線:三屋通り	8	上	20	40	20	54.4	10	9	2.6
34	幹線:多摩川通り	8	上	2,420	2,440	20	38.4	23	23	2.6
35	幹線:中央道側道	8	上	900	920	20	55.7	13	8	2.6
36	幹線:四谷通り	8	上	840	860	20	55.1	6	6	2.6

表 3-2-3-11 (2/2) 補修対策箇所一覧表 (MC I 3.0 以下)

No	路線名称	地域	上下	距離自 (m)	距離至 (m)	区間長 (m)	ひびわれ率 (%)	わだち掘れ最大 (mm)	わだち掘れ平均 (mm)	MC I
37	幹線:多磨駅東通り	1	上	40	60	20	52.7	8	8	2.7
38	幹線:多磨霊園南参道	1	上	1,100	1,115	15	39.6	18	18	2.7
39	幹線:しみず下通り	2	下	580	600	20	51.1	7	6	2.7
40	幹線:美術館通り	3	下	620	640	20	53.2	11	10	2.7
41	幹線:競馬場正門通り	4	下	80	100	20	51.6	14	11	2.7
42	幹線:本宿小通り	5	下	1,040	1,080	40	52.7	20	12	2.7
43	幹線:多摩川通り	7	下	3,380	3,420	40	43.8	18	16	2.7
44	幹線:平和通り	3	下	720	760	40	51.4	6	6	2.8
45	幹線:しみず下通り	2	上	600	620	20	49.5	7	7	2.8
46	幹線:平和通り	3	下	820	840	20	50.8	9	6	2.8
47	幹線:三本木通り	4	上	460	480	20	49.6	10	8	2.8
48	幹線:横街道	5	上	400	420	20	50.8	5	4	2.8
49	幹線:横街道	5	上	680	700	20	50.1	8	7	2.8
50	幹線:多摩川通り	7	上	4,380	4,400	20	24.2	32	26	2.8
51	幹線:東大山道	7	上	440	460	20	48.8	13	8	2.8
52	幹線:中央道側道	8	下	1,160	1,180	20	45.4	18	15	2.8
53	幹線:平和通り	3	下	640	700	60	49.0	6	6	2.8
54	幹線:富士見通り	5	下	2,360	2,400	40	41.2	18	16	2.9
55	幹線:朝日町通り	1	上	500	520	20	44.1	18	16	2.9
56	幹線:多磨霊園東通り	1	上	1,080	1,100	20	47.7	3	3	2.9
57	幹線:東郷寺通り	1	上	1,060	1,080	20	46.9	4	3	2.9
58	幹線:競馬場通り	2	上	400	420	20	47.9	11	7	2.9
59	幹線:しみず下通り	2	上	980	1,000	20	47.5	7	5	2.9
60	幹線:しみず下通り	2	下	980	1,000	20	38.8	23	16	2.9
61	幹線:東郷寺通り	2	下	60	80	20	48.2	15	13	2.9
62	幹線:武蔵台通り	5	下	80	100	20	47.7	13	8	2.9
63	幹線:多摩川通り	8	下	1,440	1,460	20	45.6	18	15	2.9
64	幹線:日新通り	8	上	220	240	20	18.0	28	28	2.9
65	幹線:多磨霊園東通り	1	下	1,180	1,200	20	45.3	4	4	3.0
66	幹線:九中通り	2	下	980	1,000	20	36.0	16	16	3.0
67	幹線:九中通り	2	下	1,100	1,120	20	44.7	13	12	3.0
68	幹線:競馬場通り	2	上	320	340	20	45.8	13	9	3.0
69	幹線:多摩川通り	2	上	7,260	7,320	60	44.9	16	12	3.0
70	幹線:平和通り	3	下	540	580	40	44.6	6	6	3.0
71	幹線:本宿小通り	5	下	1,380	1,400	20	30.2	28	19	3.0
72	幹線:多摩川通り	7	下	3,260	3,280	20	19.1	26	24	3.0
73	幹線:中央道側道	8	下	640	660	20	45.9	6	6	3.0
74	幹線:日新通り	8	上	620	640	20	45.5	4	3	3.0
75	一般:6-286	8	上	440	460	20	44.5	12	10	3.0

※ 「機械調査」はひびわれ、わだち掘れの調査。「目視調査」はひびわれの調査のみです。

※ ■ : MC I 3.0 以下 早急に修繕が必要。

車道の調査結果を、図 3-2-3-18 に示します。

インフラの整備状況（車道舗装）

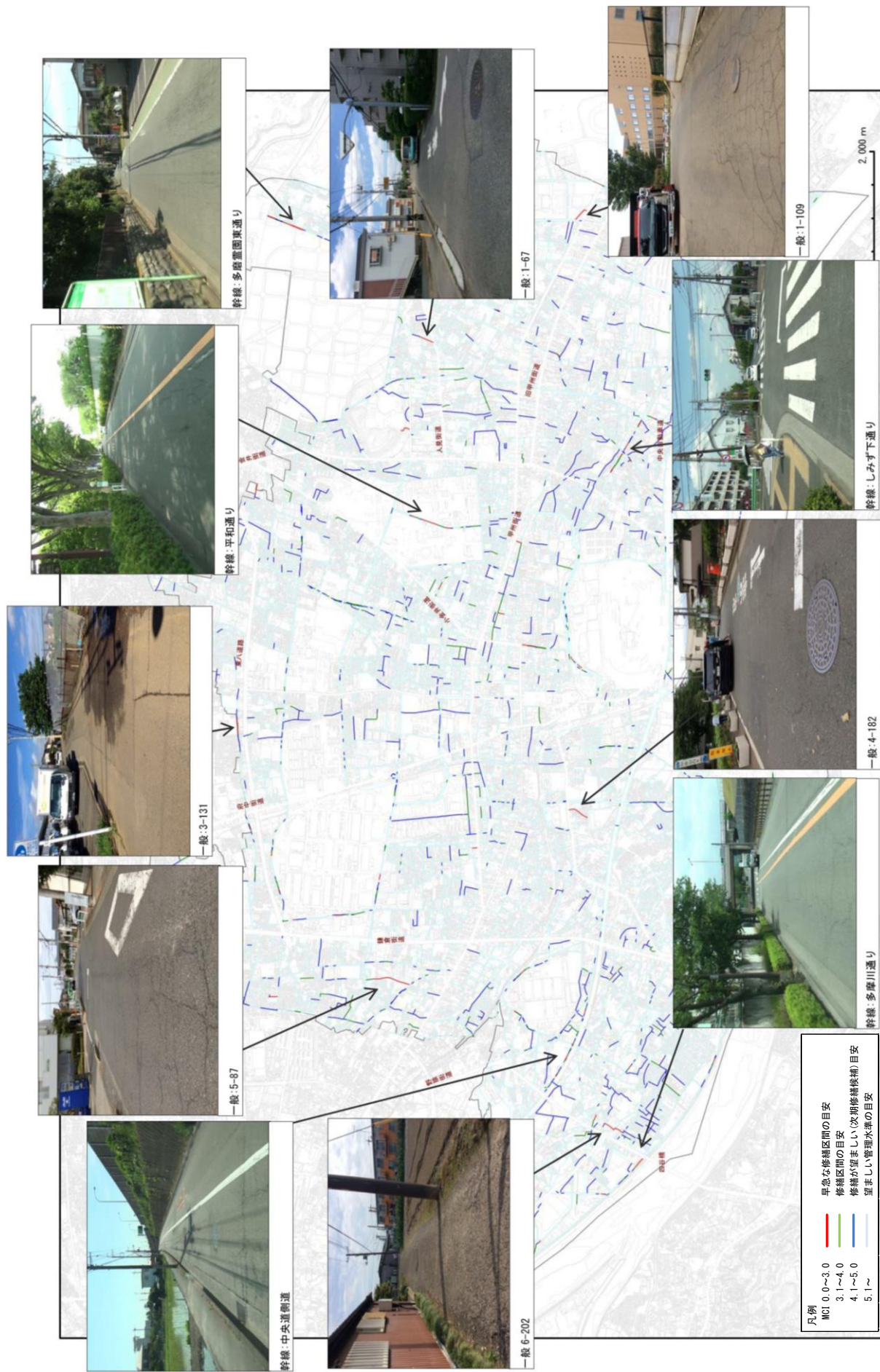


図 3-2-3-18 現状で劣化している車道舗装(平成 28 年度調査)